

高時川における透視度調査について

1 調査内容

高時川上流部から姉川河口に設定した 9 地点において、月 1 回程度の頻度で透視度を測定している。調査の様子を図 1 に示す。



図1 調査の様子

2 調査地点

調査地点を図 2 に示す。



図 2 調査地点

3 調査実施機関

湖北環境事務所 長浜市環境保全課
(琵琶湖保全再生課とりまとめ)

4 調査実施日

令和4年(2022年)11月8日、11月17日、12月14日

令和5年(2023年)1月12日、3月14日、4月10日、5月11日、6月15日

<計8回>

※ 令和5年2月は、積雪により道路通行不可のため調査ができなかった。

5 調査結果

これまでの調査結果を表1に示す。全体的な傾向としては、調査前にまとまった雨(累加雨量20mm程度)があると、透視度が低下する傾向にあった。

表1 透視度調査結果

調査日	2022/11/8	2022/11/17	2022/12/14	2023/1/12	2023/3/14	2023/4/10	2023/5/11	2023/6/15	平均値①
調査前の累加雨量*(mm)	0	33	20	23	32	41	0	4	
①	>100	>100	4	>100	>100	>100	>100	>100	88
②(大音波谷川)	>100	>100	>100	-	-	>100	>100	>100	>100
③	>100	34	7	-	4	>100	45	>100	56
④	>100	40	6	-	4	50	29	>100	47
⑤	>100	48	7	12	4	37	22	>100	41
⑥	>100	86	9	-	4	55	35	>100	56
⑦	>100	79	12	-	4	48	35	>100	54
⑧	-	-	14	-	4	50	31	>100	40
⑨	>100	97	14	-	5	65	50	>100	62
平均値②	>100	73	19	56	16	67	50	>100	

※ 調査日正午から72時間の累加雨量。(中河内(国))

注1 瀬切れのため、2022年11月8日および17日、地点⑧においては調査ができなかった。

注2 積雪により道路通行不可のため、2022年1月12日、地点②③④⑥⑦⑧⑨、2023年3月14日地点②においては調査ができなかった。

各調査地点の平均値を図3に示す。(透視度が100cmより大きい場合、図3では100cmとしてプロットしている。)これによると、②大音波谷川は、調査前降雨量に関わらず高い透視度を示している。

また、調査前にまとまった降雨が確認された場合、③より下流で透視度が低下する傾向にあることが確認された。

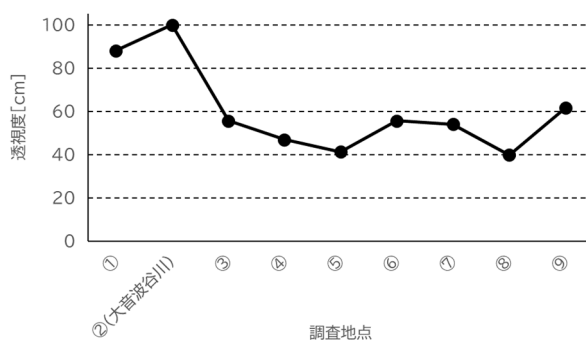


図3 各地点の透視度の平均値

調査前降雨が0mm、4mmの時は、全地点において透視度が100cmより大きい値を示したが、高時川本流の河川水はわずかに濁っている（青白い色）状態であった。調査前降雨4mm時の地点③の様子を図4に示す。

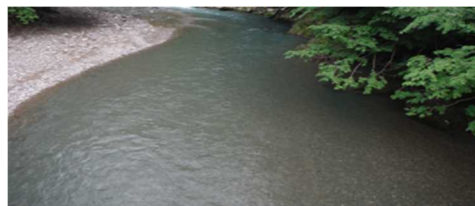


図4 高時川の濁り
(調査前降雨4mmの時。③で撮影)

なお、調査時には河床の状況も目視により確認しているが、このうち大音波谷川合流点付近の高時川では、調査を開始した令和4年（2022年）11月には、河床に赤茶色の土砂が堆積していたが、令和5年（2023年）6月にはこのような土砂は、ほとんど確認できなかった。

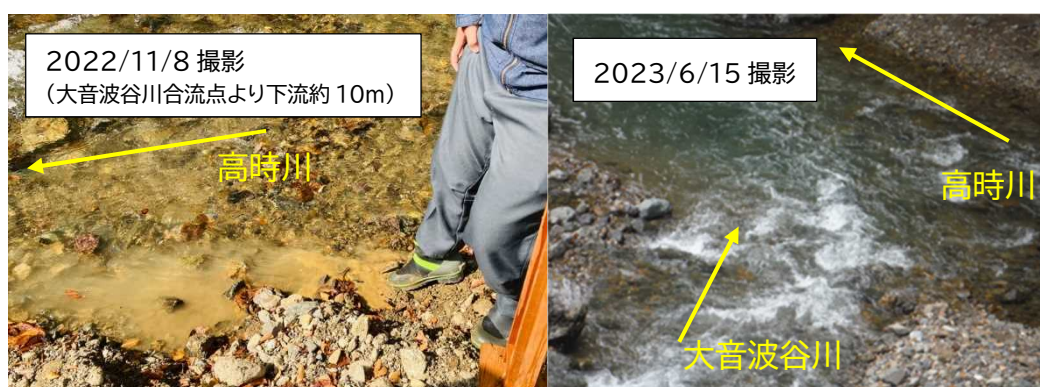


図5 大音波谷川合流点付近の高時川の河床の様子